

2025 年 1 月 28 日

阪急阪神不動産株式会社
株 式 会 社 ゴ ー レ ム

AI を活用し、建物建設時の CO₂ 排出量を 自動で算定する先進的な取組を開始



阪急阪神不動産



阪急阪神不動産株式会社(大阪市北区、代表取締役社長:福井康樹)と、不動産・建設業に特化したデータプラットフォーム「Gorlem」を運営している株式会社ゴーレム(東京都千代田区、代表取締役:野村大輔)は、AI を活用して建物のライフサイクル全体の CO₂ 排出量を正確に算定するシステム「Gorlem CO₂」(ゴーレムシーオーツー)を活用し、阪急阪神不動産が手がける建物建設時の CO₂ 排出量を自動で算定する取組を開始しましたので、お知らせいたします。

本取組は、建設業者における建物建設時の CO₂ 排出量自動算定の取組が進んできている中で、不動産会社とゴーレムによる、先進的で、主体的な CO₂ 排出量の自動算定に取り組む試みとなります。

取組の背景

全産業の CO₂ 排出量の約 1/3 を占めると言われている建築分野において、阪急阪神不動産では、CO₂ 排出量の削減を見据えた取組を進めています。建築分野の CO₂ 排出量の削減を行う上では、建物の材料調達から施工、その後の使用段階を経て解体・廃棄までに発生する CO₂ 排出量を正確に算定することが重要です。

一方で、CO₂ 排出量の正確な算定には、建物の構成部材の一つひとつを所定の CO₂ 排出原単位と紐付ける必要があり、専門知識を有する技術者が注意深く確認しながら手作業で行い、多大な時間を要することが課題でした。

「Gorlem CO₂」の概要

本システムの特長は、従来、専門的な知識を有する技術者が手作業で行っていた CO₂ 排出量の算定作業を自動化し、大幅に作業時間を削減しつつ、誰でも正確に CO₂ 排出量を算定できることです。また従来は、CO₂ 排出量の算定を行う際、取引先である建設業者ごとに書式の

異なるデータを読み解く必要がありましたが、AIを活用した本システムを利用することで、業務の運用方法を変更することなく、業務効率化を実現することができます。

今後の展開

阪急阪神不動産とゴーレムは、今後、同システムを利用して、今年度竣工予定の全ての物件を対象に、効率的なCO₂排出量の算定を進めてまいります。また、CO₂排出量の具体的な削減策の立案・推進により、カーボンニュートラル社会の実現に貢献してまいります。

■阪急阪神不動産について

社名：阪急阪神不動産株式会社

本社：大阪市北区芝田一丁目1番4号 阪急ターミナルビル内

代表者：代表取締役社長 福井 康樹

事業内容：オフィス・商業施設の賃貸、不動産開発、エリアマネジメント、不動産ファンド
マンションの分譲・賃貸、戸建住宅・宅地の分譲、仲介、リフォーム、賃貸管理、土地活用など

会社 HP：<https://www.hhp.co.jp/>

■ゴーレムについて

社名：株式会社ゴーレム

本社：東京都千代田区一番町15番地21

代表者：代表取締役 野村 大輔

事業内容：DX プロダクトの開発と運用、建設・建物のDX支援

会社 HP：<https://www.about.gorlem.com/>